

令和7年度第2回箱根町総合計画審議会及びまち・ひと・しごと創生有識者会議
意見一覧

項目	意見
町の現状 (観光)	<p>観光客数について、2,000万人がマックスかどうかというのは、私はマックスだとは思っていない。他の産業の発展という議論もあるが、箱根町で一次産業がどう発展するかというのは、あまりイメージがわからないからである。箱根は国際的な観光都市ということを謳い、それにある程度特化したほうが良いと思う。湯本の渋滞等、いろいろな課題への対応をどうしていくのかというのは、これからいくらかでも考えられると思うので、やはり観光をまず一大メインにするべきだと思う。それによっていろいろな産業が成り立ち、人口も増加すると思っている。</p>
	<p>人数を求めるのではなく、質を求めるといえるか、箱根に来てハンバーガーを食べて帰ると、フレンチを食べて帰ると、どちらが良いのかというフレンチを食べてもらった方が良いに決まっている。一人当たりの消費額が少なくても人数が増えれば消費額は増えるが、せっかくDMOがあるので、一人当たりの観光消費額を増やすということを考えてもいいのかなと思う。単純に人数だけではない面もあると思う。</p>
	<p>観光客の件について、増えることは良いと思うが、それに伴い、現状でもごみの問題や渋滞の問題があり、そちらを解決してからの方が良いのではないかなと思う。観光客が増えることで、問題が山積すると思うので、その辺を考慮してほしい。</p>
	<p>今後は観光客をやみくもに増やしていくという方向にはならないと思っている。ただ、次期総合計画は、何を目指していくのか、単純に人数だけではなくて、さきほど(久保内)委員がおっしゃった、どういう内容の観光をしてもらうのか、これについては箱根町が何を提供するかということと表裏一体になってくると思うので、そのことを認識しつつ検討いただきたい。</p>
町の現状 (財政)	<p>11ページの中長期財政の見通しはこの先、財政の歳入歳出がどうなっていくかという数字である。実はこの財政見通しというのはとても難しく、どの程度正確に算出できるのかという問題はあるが、一定の前提条件のもとで計算しているものである。ベージュ色の歳入部分には、毎年26.7億円のふるさと納税の歳入が入っているということを踏まえたうえで、見ていただきたい。つまり、ふるさと納税が無かったら26.7億円分が減るということで、即財政難という状況である。ふるさと納税というものは、あぶく銭であると、私は考えている。要するに、増えることもあるが、何かあったら入ってこなくなる歳入ということである。</p>

令和7年度第2回箱根町総合計画審議会及びまち・ひと・しごと創生有識者会議
意見一覧

項目	意見
人口推計	<p>令和12年は外国人が3,292人で、令和12年までの外国人の増加率を踏まえて、令和18年の人口を見込んでいけるとなると、令和18年の8,743人が劇的に減る可能性があると思う。国では外国人を無尽蔵に受け入れているのではなく、育成就労等で上限を決めているので、受入上限に達したら外国人は現行制度上もう入ってこないことになる。令和12年までの増加率で、外国人が令和18年まで増えていくと想定してこの人口を見込むのは、かなりミスリードではないかと思う。</p> <p>日本人人口ということであれば、この推計方法で良いが、箱根町のように人口規模が小さい割には、直近で外国人人口の増加率が高いという場合には、やはり無視できないと思う。それをどう見るかによって、だいぶ人口の在り方が変わると思う。私のイメージとしては、外国人が増えているのは、若い働き手が、日本人がいなくなった部分を補うような形で入ってきているのかなと思っている。要するに、主に小売やサービス系の需要の中で、足りない人手に対し、外国人が来ているということで、直近の伸びのまま継続するわけではないと思っている。その辺り、今委員からご指摘いただいたように、外国人の今後の動向をどの程度、見るのか見ないのかということも含めて、最も問われるところだと思うので、検討していただきたい。</p>
サイクル (自然環境)	<p>寄木細工のパンフレットには、寄木細工は箱根山系の豊富な樹種から作られていると記載があったが、国立公園であるため、実際には伐採ができず、海外や国内各所からの材木を使用しているとのことだった。防災面では、杉は寿命が平均500年くらいで、江戸時代に東海道が整備された頃に植えられたものであるとすると、寿命が迫っており、近年の豪雨の多さから、土砂崩れの可能性が出てくる。根が深くて土をしっかりと掴む広葉樹にすれば、災害にも強く、景観的にも紅葉がきれいで、観光の面でも良い。さらに、林業が発達すれば、仕事が増えるので、人も増えて町も潤うということに繋がってくると思う。まず防災面から、樹齢に関しての調査と、付随して、国立公園内という理由で伐採できないのであれば、国との話し合いなどもお願いしたい。また、トラスト募金箱が少な過ぎるので、大きな駅などに募金箱を設置し、財源の一部にできるくらい集めてほしい。最後に、寄木細工自体が、箱根町の大切な文化でありながら、保護されていないのが現状であるらしく、海外で盗作のようなものが安く売られているようなので、町としてしっかり保護していただきたい。自然を大切に、自然の調査等で仕事を作り、人も増えていく、というイメージで、サイクルのひとつとして考えてほしい。</p> <p>資料1の13ページのサイクルには、暮らし、観光、行財政という3つの主要なものが書かれているが、豊かな自然環境が良好な形で維持されているという大前提があると思う。あとは、暮らしていて、安全であるということ。大涌谷等、心配なことはあるが、基本的には、できる範囲で安全に保たれているということがあってこのサイクルであると思う。ここに書くかどうかは別にして、自然環境が良い形で維持されるというのは当然のこととして検討していただきたい。</p>

令和7年度第2回箱根町総合計画審議会及びまち・ひと・しごと創生有識者会議
意見一覧

項目	意見
<p>サイクル (行財政運営)</p>	<p>13ページのこのサイクルは、とてもよく考えられているということは分かる。14ページに、重点課題に集中して3つの柱（暮らし、観光、行財政）の好循環を目指す、その前提として、「あれもこれも」ではなく、「あれかこれか」とあるが、正直、暮らしの分野が入った瞬間に、全てが入ってしまうのではないかと思う。定住促進で人が来たら、当然子育てがあり、学校があり、親の介護もある。先ほど（水野）委員がおっしゃったように、地域のコミュニティバスを走らせて高齢者の送迎、ということも考えなくてはいけない。そうすると、結局「あれもこれも」になるのではないか。</p> <p>どうしても行政運営として逃げられない分野や切り捨ててはいけない分野はあると考えている。今はどこの自治体も、「あれかこれかに絞ります」と言っているが、個人的には、「あれもこれも」やらなくてはいけないのが行政だと感じている。私としては、公務員だけでは難しいので、担い手を広げていかななくてはならないという思いがあるので、そういった視点が少し足りないと感じた。</p> <p>14ページに「あれかこれか」と書いてあるのは、見せ方をそうしますということだと理解している。現行計画は基本的には同じフォーマットで全部書かれているが、それをもう少しメリハリをつけた見せ方をするという意味合いであると私は理解をしている。やるべきことはきちんとやるけれども、力を入れてやることは、それを特出しして分かりやすく書くということである。</p>
<p>サイクル (行財政運営)</p>	<p>国も地方自治体も業務に追い立てられていて、何とかしなくてはならないということは、国の中で議論されている。理由としては、職員が減っていることがひとつあると思う。こうした課題に対し、国は地方に仕事を減らすように言っているが、生産性を上げるとも言っている。生産性を上げるというのは、この緑色の部分、行財政運営の中での効率的な運営やデジタルの導入に該当するかと思うが、もうひとつ国が言っているのは、担い手を広げること。要は公務員だけではやりきれないから、民間と一緒に仕事をやっていきなさい、つまりは官民連携ということだが、その官民連携の視点が全く無いと思った。</p> <p>官民連携という言葉は、慎重を要するものだと思っている。というのは、行政が官民連携というと、民間側からは、民間に全て押し付けるのかというような反応があるためである。このため、書き方や内容はとても慎重に取り扱うことが重要である。先ほど（水野）委員が、自治会でコミュニティバスの運行について考えたので、今後は支援してほしいということをおっしゃったが、これに行政が乗ったら、立派な官民連携になる。しかも、民間主導である。そういったことを実際にできるような体制や体質に変えていくということも官民連携だと思う。従来型の枠組みだけでなく、箱根に合った官民連携の在り方というものを模索して、示していただきたい。</p>

令和7年度第2回箱根町総合計画審議会及びまち・ひと・しごと創生有識者会議
意見一覧

項目	意見
アンケート結果 (交通)	<p>前回の会議で話した、各地域のコミュニティバスはとても重要だと考えている。昨晚、宮城野地域では、地域包括支援センター主催で、地域ケア会議を開催した。その中で、高齢になり免許を返納し、車で移動できなくて困っている高齢者への対応の話になった。運転手はボランティア、箱根老人ホームの車両を使う案が出たが、その場合の保険代やガソリン代の負担について、町にお願いしたいが、実施まで時間がかかるので、この案は断念し、社会福祉協議会が仙石原でニコニコ号として運行しているバスが木曜日以外は空いているということから、その車両を宮城野地域で使うことになった。経費については社会福祉協議会が計上してあるので、そこから支出することになった。宮城野地域では強羅が3年前からコミュニティバスを運行する予定で動いていたものの、途中で頓挫してしまったので、強羅をモデル地域として先に実施することになり、その後二ノ平・宮城野で実施することになっているが、将来的には社会福祉協議会ではなく、やはり町がコミュニティバスを全町各地域で運行した方が良いと思う。</p> <p>アンケート調査では、毎回、出てくる課題は変わっていない。何らかの対応をすれば、町民の意識が変わることは明らかなので、どこまでできるかという問題はあるにしても、地元の方が率先して行動しているので、そろそろ本腰を入れて、それをサポートするような形で、前向きに検討いただきたい。</p>
アンケート結果 (交通)	<p>現在、仙石原や強羅には、外部の大手資本や外国資本が入ってきていて、大きな施設が今後ますます増えることが想定される。そうなると、観光客増に伴い、車も増えると思うので、交通の課題はもっと深刻になってくるのではないかなと思う。町が湯本の渋滞の原因等の分析をしているのかは分からないが、結局は湯本のセブンイレブン前の横断歩道での人の横断で車の流れが止まり、そこを過ぎるとスムーズに流れているので、あの場所が渋滞の要因なのではないかなと思っている。歩道橋や、歩行者天国にしてバイパスを作るとか、今すぐにはできないかとは思いますが、今後の観光客増を考えると、今のうちに渋滞を何とかしないと、箱根に来たのに、一日渋滞に巻き込まれて終わってしまったということが出てくる可能性もあり、本当にもったいない。世界の箱根なので、対策をしていく必要があると思った。</p> <p>冒頭で、私が観光客年間2,000万人はマックスかどうかお伺いしたが、仮に今後増えていくとすると、インバウンドがほとんどを占めるという可能性が高いと思う。そのことを想定しつつ、交通は、アンケートから分かるように住民にとっても大問題であり、産業面でもネックになっている。先ほど部長がおっしゃったように、いろいろな取組みをしているものうまくいかなしいという面があり、永遠の課題かもしれないが、何らかの踏み込んだ対策をぜひ検討していただきたいと思う。</p>

令和7年度第2回箱根町総合計画審議会及びまち・ひと・しごと創生有識者会議
意見一覧

項目	意見
アンケート結果 (若者定住)	<p>女性の18歳から39歳で、「ずっと住み続けたい」「できれば住み続けたい」という人が圧倒的に少ない。昔は男性が地方から都会に出て、女性が地方に残っていたが、今は全く逆で、男性が地方に残り、女性が都会に出てしまう。地方は男性が多くなり、女性が少なくなったので、人口が減っているというのが、今の地方の人口減の原因のひとつではないかと言われている。まさに箱根はその典型だと思う。18歳から39歳の女性が出ていきたいということは、皆さんも消滅可能性都市という言葉をお聞きになったことがあると思うが、その年代の女性が今後数年間で減少することで子どもも人もいなくなり、将来的に消滅してしまうかもしれないという消滅可能性都市にあたるということ。資料を見ると、箱根は消滅可能性が高いなと感じた。今すぐできる対応はもちろんやっていただきたいが、なぜ18歳から39歳の、特に女性がこう思っているのか、その点は分析が必要ではないかと感じた。</p>
	<p>若い世代の女性のこのアンケート結果は非常にショッキングで、特徴的である。この18歳から39歳の女性について、働いている方とそうではない方とを分けると、傾向が少し違うのではないかと思う。18歳から39歳と言っても、女性の中には様々なステージの人がいると思うので、ステージごとに分けてみるのも良いとも思う。サンプルが少なくなるので明確な傾向が出てくるかどうかは分からないが、この世代の女性がポイントだということは確かであるため、まず分析をしていただきたい。</p>
アンケート結果 (若者定住)	<p>町外から転入してきて、今後も住み続けたいという意向を持っているが、出会いが少ないということは感じている。それは、箱根町は観光業が主要な産業で、そこに携わる人が若者も含め、多くがシフト制だったり、夜勤があったり、そういう勤務形態が、なかなか出会いに繋がりにくいということ、あとは車通勤が多いことや、各地域が山間で点在しているので、なかなか他の地域との交流がしにくいということが理由としてあると思う。私自身は夫婦の世帯になったものの、婚活をするのは本当に大変だった。町の企画課が中心となり、若者の交流イベントなどを開催してくれたので、そういったイベントにも参加したが、そもそも、そういった場の人を集めるということ自体が箱根町の傾向として、なかなか難しいという実態はあると思う。</p>
アンケート結果 (若者定住)	<p>資料3の7ページの移りたい理由で、遊ぶ場所、楽しめる場所が少ないとか、交通渋滞が多いとか、車がないと生活できないというのは、女性にとって不利な部分が理由として目立っていると思った。私の場合は、自然が大好きなので、今の環境はかなり気に入っている。ぜひ森林を保護することに注力してほしい。私の世代の女性だと、遊ぶ場所となると、小田原も昔と比べると遊ぶ場所がかなり減ってしまい、観光客向けのお店が多くなっているので、小田原よりもっと県央の方まで行かないと、遊ぶ場所がないのではないかと思う。私の場合は今の環境が楽しいので良いが、もっとリアルな女性の声を取り入れ、小回りのきいた施策を考えてほしいと思う。</p>

令和7年度第2回箱根町総合計画審議会及びまち・ひと・しごと創生有識者会議
意見一覧

項目	意見
アンケート結果 (若者定住)	夜、若い人たちが集まれる場所がないというところは、箱根町の愛着形成という部分に大きく関わってきていると思っている。私が働いている美術館で、2023年に夜間開館のイベントを開催した。夜に美術館を開けて、その中でいろいろな催し物や、飲食の提供をし、箱根在住在勤の方々を招待した。多くの方に来場いただき、日頃そういう場がないということ、そういうニーズがあるということを実感した。
アンケート結果 (若者定住)	私が今一番気にかけているのは、若い独身の人で、ホテル勤務で寮に入っている人に対して、出会いの場がもっとあったら良いということ。箱根で出会って結婚して、箱根に住んでいただきたいと思っている。先ほど、(伊藤)委員のお話にもあったが、若い人が集える、夜に遊ぶような場所があまりない。私にも30代の息子がいるので、箱根のロケーションを生かした、昔の「ねるとん紅鯨団」のようなイベントを企画できたらすてきだと思う。お見合いだと引いてしまうので、気軽に集まれる場所で、自然に出会えたらいいと思う。